

日本川崎病研究センターニュースレター

(No. 49) 2025. 1. 1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

ご挨拶

今田義夫

今年も、NPO 法人「日本川崎病研究センター」の活動に会員の皆様をはじめ、多くの方々に、変わらぬご支援を頂きましたこと、この場を借り、厚くお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの流行はやや勢いは減じたものの、変異を繰り返し、強い感染力は相変わらずでまだまだ、我々の脅威であることには変わりありません。また、今までの調査・研究により、川崎病の発症動向にも強い影響が示唆されており、今後しばらくは注視が求められる状況も変わらない状況です。そこで、当センターは、日本川崎病学会と協力のもと、川崎病の疫学的研究として自治医大公衆衛生学部門（阿江竜介教授）に委託し「川崎病全国疫学調査 2023-24」と題して新たな体制のもと行われる、全国的調査を実施させていただく事になりました。原因究明に資する新たな知見が得られることを期待します。

さて、今年第44回「日本川崎病学会」学術集会が10月4～5日に福寿会病院小児科深澤隆治会長のもと一ツ橋会館を会場として実施され、また、第14回国際川崎病シンポジウムはカナダ、モントリオールで8月26～29日に開催されました。いずれも当センターは開催支援をさせていただきましたことをご報告させていただきます。国際川崎病シンポジウムでは今までと同様に、日本語と英語の同

時通訳を全面的にサポートさせていただきました。

また、国際シンポジウムには多くの関係者のご協力により、当センターで柳川副理事長、中村理事により記された「第1回～第27回川崎病全国疫学調査総括」の英語版を多くの参加者に配布することができました。日本以外の国では得られない多くのデータとその解析で満たされたこの書は、海外での今後の川崎病の研究に大きく寄与することと思われまます。ご協力いただいた方々にお礼申し上げます。次に、恒例となりました、勉強会は鮎澤衛担当理事により、東邦大大橋病院を会場として、2025年2月8日当センターと川崎病の子供を持つ親の会との共催で行われる予定です。この会は、医療関係者や親の会の会員はもちろん何方でも参加が可能です。今回も開催にご協力いただく東邦大学の方がた深謝申し上げます。

本年は研究センター役員の改選の年でしたが、顧問、監事、理事の人事に変更なく、2026年6月までの2年間現体制で運営いたします。どうぞよろしく願いいたします。

最後になりましたが、残念なご報告を申し上げます。当センターの設立以来の会員で、川崎先生の信頼も厚く、当センターにもしばしば顔を出して、我々を励ましてくれた那須武先生が11月に亡くなりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

(日本川崎病研究センター理事長)

川崎病勉強会 2024 のご案内

鮎澤 衛

2024 年は、新型コロナウイルスの影響が少なくなり、社会生活も、医療者にとっての学会活動なども、お互いに直接会って話ができる場面が復活した 1 年となりました。3 年余りに及ぶ「コロナ禍」は全ての人に大きな影響を及ぼしました。川崎富作先生と川崎病の子供をもつ親の会代表であった浅井満様が相次いでご逝去され、学会はすべてオンラインのみとなり、日常生活も医療者の生活も感染対策に追われました。

しかし、日本川崎病研究センターでは、川崎病の診療と研究の歩みを止めないようにと理事会で話し合い、新しい勉強会の開催が決定されました。高橋啓先生によって、2022 年に第 1 回が開催され、2023 年度には、阿部淳先生が引き継がれ、いずれも徐々に新たな研究に触れて、活発に議論できる会となり、事後のアンケートでは、多くの参加者から今後

の継続を希望する回答がありました。

それに応えるべく、本年度も東邦大学の講堂をお借りして、勉強会の開催を計画しました。年を跨いでの 2 月開催ですが、現地でもオンラインでも参加可能なハイブリッド方式を計画しています。

今回も、当センターの命題である、「原因究明・病態解明」を目指し、小池通夫先生、鈴木啓之先生を中心に、関西の川崎病研究を牽引する和歌山での川崎病研究について北野尚美先生から特別講演をいただくほか、注目される国内の若手の先生方を中心にご講演をお願いし、より新しい川崎病研究の動向を知ることと、第 14 回国際シンポジウムの内容を各部門でまとめていただき、国際的にも川崎病研究の新しい流れを感じる機会になれば嬉しく思います。皆様のご参加をお待ちしています。

2024 年 11 月 30 日

(神奈川工科大学健康医療科学部)

ニュースレター No.49 をお届けいたします。
ご意見ご感想をお寄せ下さい。

現時点でのプログラム (予定)

日本川崎病研究センター 理事

鮎澤 衛 (神奈川工科大学健康医療科学部)

共催 特定非営利活動法人日本川崎病研究
センター

川崎病の子供をもつ親の会

日時 2025 年 2 月 8 日 (土) 12 時 30 分 ~ 17 時

場所 東邦大学医療センター大橋病院と Web によるハイブリッド開催

当番世話人 日本川崎病研究センター理事/神奈川工科大学健康医療科学部 鮎澤衛

セッション1 「川崎病の病態に迫る～次世代の展望」(座長：松原知代・尾内善広)

① 「新たな手法による炎症性サイトカイン解析」

国立国際医療研究センター 酒井愛子

② 「Kawasaki Disease before and after COVID-19/MIS-C」(仮題)

自治医科大学小児科 松原大輔

③ 「KDにおける免疫細胞の病態」

山口大学小児科 岡田清吾

特別講演 和歌山県立医科大学医学部 公衆衛生学(健康管理センター) 北野尚美

(座長：鈴木啓之)

「川崎病における IVIG 治療反応性と冠動脈後遺症との関係：

冠動脈後遺症発生ゼロを目指して和歌山から発信」

セッション2 第14回国際シンポジウム (IKDS) 報(座長：高橋 啓・鮎澤 衛)

① 「臨床研究と全体総括」 新潟大学小児科 沼野藤人

② 「基礎研究」

千葉大学公衆衛生学 尾内善広

③ 「APKDA」

東京女子医科大学八千代医療センター小児科 小林弘信

④ 「Parents Association Meeting」

川崎病の子どもを持つ親の会 正木洋介

セッション3 「原因究明アプローチのこれから」(座長：小林 徹・阿部 淳)

① 「疫学(新たな疫学調査)」

自治医科大学公衆衛生学

阿江竜介

② 「病理学的アプローチ」(仮題)

東邦大学医療センター大橋病院

病理診断科 浅川奈々絵

③ 「免疫(DAMPs 仮説の展望)」(仮題)

福岡赤十字病院小児科

古野憲司

参加方法

事前登録制【2/1(土)締切】 ※どなたでもご参加いただけます。

参加費 無料

Japan Kawasaki Disease Research Center

「川崎病とご縁と国際川崎病シンポジウム」

沼野藤人

皆様あけましておめでとうございます。

新潟大学医歯学総合病院小児科の沼野藤人と申します。今回、様々なご縁の結果、由緒あるこのニュースレターに寄稿をさせていただくこととなりました。思えばこれまで川崎病に関わる方々とのご縁でいろいろな経験をさせていただきました。今回は個人的なことではありますが書かせていただこうと思いません。

私は平成 10 年に新潟大学を卒業して新潟大学小児科で研修を開始いたしました。関連病院での研修で様々な疾患の担当医をすることとなり、その中で川崎病と出会いました。高熱で発疹だらけ、目や唇も真っ赤で消耗した患児に川崎病の診断をつけることも勇気がいることでしたが、免疫グロブリンを投与することで劇的に状態が改善していく患児をみて小児科医としての一人前になったような感触を覚え、川崎病という疾患に強い興味を持ちました。

その後、小児循環器を専門として勉強を開始したのですが、同時に細々と川崎病後遺症について臨床研究じみたことも始め、人生初めての全国学会で発表したのも川崎病後巨大冠動脈瘤の患者さんの症例報告で、川崎病との関わりは深くなっていきました。その発表で思いもよらず海外招待の先生から質問を受けたのですが、初めての全国学会でまさかの英語での質問、頭の中は真っ白となり、内容はなんとか理解できたものの全く回答することができずしどろもどろになっていると、その先生の横にいらした現・岡山大学の赤木禎治先生が代わりに答えてくれました。このと

きの衝撃と悔しさから、いつか英語でリベンジを果たしたい！と考えるようになり、いつかは海外留学を、と思うようになった出来事でした。

しばらくして川崎病とは関連のない内容で大学院を卒業したものの（それはそれでご指導いただいた先輩には感謝しております）、川崎病の研究を突き詰める、海外留学につなげる、という手段が全く無く途方にくれています。そんなときに当科に着任されたのが齋藤昭彦教授でした。齋藤教授は感染症を専門として University of California, San Diego (UCSD) で診療を行っていた経験もあり、帰国後は国立成育医療研究センターにてセンター内の川崎病ボードの立ち上げなど川崎病にも関わっておりました。UCSD 川崎病研究センターの Jane Burns 先生とも交流があったため、Burns ラボへの留学というこの上ない提案を頂き、二つ返事をお願いしました。留学中は巨大冠動脈瘤患者の心筋・冠動脈線維化についての研究を行ったのですが、壁にぶつかるたびに当たって砕けるで周囲や国内外の研究者にアクセスするのですが、Burns 先生の仲立ちでなんとかすることができました。そこで出来たご縁があって、帰国後の現在も少しずつですが研究も続けているほか、日本川崎病学会の仕事もさせていただいています。

最後に昨年 8 月 26 日から 29 日に開催されました第 14 回国際川崎病シンポジウム (IKDS) のことを少しだけ書かせていただきます。これまでの IKDS では Boston Children's Hospital の Jane Newburger 先生と UCSD の Jane Burns 先生の二人の “Jane” が各日の発表のまとめと最終日のシ

シンポジウムのまとめとして“Wrap-up”を行ってきたことを思い出す方は多いと思います。これがなかなか大変な作業であったので、今回の第14回 IKDS からは各国から指名された7名が“Wrap-up team”として1日のまとめを分担して行うこととなり、ラッキーなことに私もその team の一員として参加させていただきました。これまで二人で行っていた作業を7人で分担するとはいえ一日のすべての発表（しかも英語！）をまとめる作業は大変で、これまでで一番真剣に学会発表を聞いたのではないかと思います。IKDS 前に team メンバーとはメールでのやり取りはあったとはいえ、初日の早朝のミーティングで初めて顔を合わせるまでは不安八割でしたが、実際に作業が始まると川崎病への興味とシンポジウムの目的を共有する仲間であり、みな切羽詰まっていたのも同じだったためかすぐに気のおけない仲間となりました。

この Wrap-up のスライドが IKDS ホームページ (<https://www.ikds.org>) に公開されていますし、内容については Canadian Journal of Cardiology Pediatric & Congenital Heart Disease 誌にてまもなく掲載されるほか、2月の川崎病研究センター勉強会でも少し紹介させて頂く予定ですので、ぜひともご参加いただければ幸いです。

これまで何かと節目節目に人のご縁で助けていただき、引っ張ってもらってここまでやってこれています。私も誰かの助けになれるように頑張る所存ですので、皆様よろしくお願ひ申し上げます。

(新潟大学医歯学総合病院小児科)



(写真) 壇上で IKDS Wrap-up team として自撮りをさせていただきました。右端が筆者。

「IKDS 2024」に参加して

川崎つぶら

新年明けましておめでとうございます。

私は2024年8月26日から29日まで、カナダ・モントリオールで開催された「IKDS 2024」に、日本川崎病研究センターから参加させていただきました。今回の IKDS では、各国の親の会との交流に大きな意義を感じました。特に、Kawasaki Disease Canada やアメリカの KD Foundation、オーストラリアやイタリアの親の会代表など、海外の親御さんと直接知り合い、意見を交換できたことは貴重な経験となりました。

日本からは、親の会副会長の正木さんがご家族で参加され、大会前日の8月25日に開催された親の会の交流会「Business Meeting」では、日本のシステムについて代表として解説されました。この場で、日本の親の会の取り組みが他国の参加者から高く評価されました。日本では、川崎病の初期発見と治療が進んでおり、不安が軽減されている一方で、後遺症への対処が課題として残されています。しかし、多くの参加者からは「日本の患者・医師・

親の会の連携システムが充実しており、模範的だ」といった声が上がりました。この評価は、日本の親の会を立ち上げた故浅井さんをはじめ、その活動を支えてこられた多くの方々の努力の賜物だと改めて感じました。こうした議論や交流を通じて、国を超えた連携の重要性を深く実感する機会となりました。

KD Canada 代表の Ms. Elizabeth Heald は、ご自身も川崎病で息子さんを亡くされた経験をお持ちですが、その悲しみを乗り越え、ホスト国として見事に会を取りまとめてくださいました。その力強い姿勢に、私は深い敬意を覚えました。因みに Ms.Heald は、IKDS2024 を最後に会長を退き、Ms. Carin Lin が会長に就任されました。

二日目には、朝7時から「Asia Pacific KD Association Meeting」が朝食を取りながら開催され、多くの参加者が集まりました。この朝食会は、日本川崎病研究センターが支援させていただきましたが、親しみやすい雰囲気の中で、アジア太平洋地域における川崎病研究の進展について意見が交わされました。お昼には「Parents Meet the Expert」が開かれ、親の会の方々と医師が直接話し合う相談会も行われ、親御さんの具体的な不安や疑問に専門家が丁寧に答える場となりました。三日目の「Parents Meeting」では、各国の親の会の共通点や相違点が話し合われ、患者や家族の声を活動にどのように反映させていくか、多くの視点が共有されました。これらの交流を通じて、世界規模での情報共有と支援の連携の重要性を、改めて実感しました。

今回の IKDS では各国の参加者が各研究の発表をされ、ヨーロッパ、中南米、アジア、さらにウクライナやアラブ諸国からも参加さ

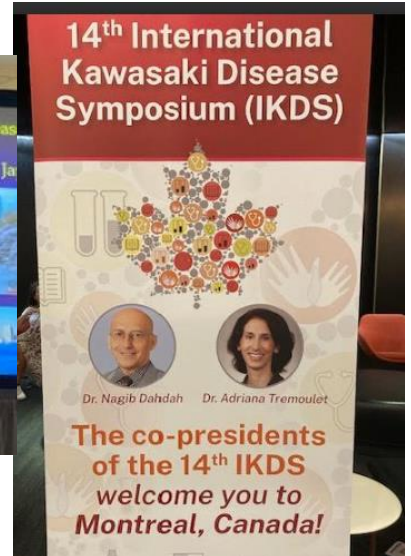
れていました。

私個人の活動としては、父の古い友人である Dr. Marian Melish, Dr. Shulman ご夫妻や Dr. Mike Takahashi など、懐かしい先生方との再会に幸せな時間を過ごすことができました。最終日には、父に関する「Tribute Speech」を行い、家庭での思い出や父の「イクメン」振りを共有したことで、会場全体が一体となって父を偲ぶ時間を持つことができ、私にとって忘れられないものとなりました。この場をかりて、IKDS2024 を成功に導いてくださった学会長の Dr. Nagib Dada, Dr. Adriana Tremoulet、そしてスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

余談になりますが、私は2023年10月にインドの Chandigahl で開催された「6th National Conference of Indian Society of Kawasaki Disease」、2024年12月にはインドの Patna で行われた「7th National Conference」にも参加し、父の Tribute Speech をさせていただきました。インドでは、川崎病研究に情熱を注ぐ多くの若手研究者や医師たちの熱意に圧倒され、私自身も新たな刺激を受けました。特に、川崎病の原因究明に向けて全力で取り組む姿勢に触れ、世界の研究者とともに何ができるのか、私なりに模索を続けたいと思うようになりました。父が立ち上げた日本川崎病研究センターの活動に微力ながら携わり、父が生前思い描いていた川崎病研究の未来を見守る役割を果たしていきたいと考えています。また、日本国内でも川崎病の認知を高め、患者さんやそのご家族が安心して暮らせる社会を目指し、努力を続けていきたいと思っています。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

Dr. Nagib Dada & Dr. Adriana Tremoulet



Parents Meeting



Dr. Adriana Tremoulet



事務局から

【センター日報】

2024年5月17日 2024年度第1回理事会開催 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議

2024年5月17日 2024年度公募研究選考委員会開催 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議

2024年6月8日 2024年度総会と研究報告会開催（於:エッサム神田） 1:00pm Zoom 会議

各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。

2024年6月8日 2024年度第2回理事会開催 総会后（於: エッサム神田） Zoom 会議

2025年3月7日 2024年度第3回理事会開催予定 5:00pm～（於:当センター） Zoom 会議

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員総数】 2024年12月末現在

[正会員：64名、1法人、2任意団体]：[賛助会員：88名、1法人、0任意団体]

【学会・研究会・国際シンポジウム】

★ 第49回近畿川崎病研究会 2025年3月1日（土）13:00～ 於: 完全 Web 開催

運営委員長:津田悦子先生（国立循環器病研究センター小児科）

★ 第44回東海川崎病研究会 2025年5月31日（土）予定

代表世話人:加藤太一先生（名古屋大学小児科）

★ 第44回関東川崎病研究会 2025年6月21日（土）予定 於:日赤医療センター講堂

代表世話人:濱田洋通先生（千葉大学小児科）

★ 第45回日本川崎病学会 2025年10月17～18日（金・土）於:久留米シティプラザ（久留米）

会頭:須田憲治先生（久留米大学小児科）

★ 第15回国際川崎病シンポジウム 2027年 月 ～ 日 於: （ ）

会頭:松原知代先生（獨協医科大学小児科） ・ 尾内善広先生（千葉大学公衆衛生学）

★ 「川崎病の子供をもつ親の会」 問い合わせ先：Tel：0467-55-5257

新会員募集にご協力ください!!!

正会員 年会費 20,000円

賛助会員 年会費 5,000円

【川崎病に関するご相談】

専用アドレスを開設しました。<kdcentersoudan@gmail.com> 担当理事が、随時返信でお答えさせていただきます。電話・Faxによるご相談はご遠慮ください。

【川崎病急性期カードお申込み】

専用アドレスを開設しました。<kdcenterkdcad@gmail.com> 主治医の先生に記入して頂き、母子手帳などと共に保存して今後にお役立てください。

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 ALES 6階 Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-1124